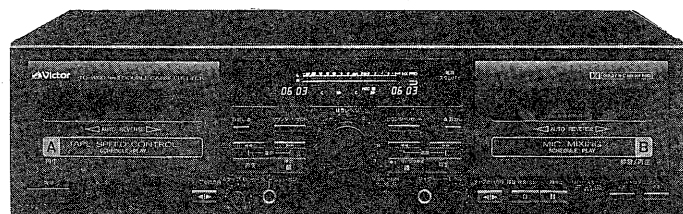


ダブルカセットデッキ

型名 **TD-W603_{MK II}**



—お買いあげありがとうございます—

ご使用前にこの「取扱説明書」と「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。



この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

も く じ

ページ

お使いになる前に

主な特長	2
正しくお使いになるには	2
各部の名前	4
接続のしかた	6
コンピュリンク機能について	7

使いかた

テープを聞くには(再生)	8
・コンテニューアスプレイ(連続再生)	9
・無音検出頭出し	10
・無音検出巻戻し	10
・ミュージックスキャン(自動選曲)	11
録音するには	12
・録音レベルの調節	13
・曲間にあき(ブランク)を作るには	14
ダビングするには	15
マイクミキシングするには	16
タイマー再生するには	18
リモート端子について	19

知っておいてほしいこと

著作権について	20
お手入れのしかた	21
こんなときは	22
保証とアフターサービス	23
主な仕様	裏表紙

お使いになる前に

使いかた

知っておいてほしいこと

主な特長

- テープ編集に便利なダビングデッキ
 - ・ワンタッチ操作のシンクロススタートダビング(定速/倍速)
 - ・ダビング停止ボタン付き
- 再生リバース+録再リバースのダブルオートリバースメカニズム
 - ・2モーターフルロジックメカニズム
 - ・デッキA・Bのコンテニューアスプレイ(連続再生)
 - ・フルロジックコントロール
- ワイヤードリモコン端子付
- 無音検出頭出し/無音検出巻戻し
- ピュアな高音再生を実現するドルビー HX-PRO^{プロ}
- ドルビー^{ノイズリダクション} B/C NR システム
 - ・MPX フィルター内蔵
- マイクミキシング可能
 - ・再生ミキシング&ミキシング録音
 - ・ミキシングのレベル調節つまみ付き
- Aテープスピード調節つまみ(デッキA)
 - ・約±10%コントロール可能(定速時)
- その他の特長
 - ・ミュージックスキャン(前後99曲)
 - ・4ケタテープカウンター(デッキA・B独立)
 - ・オートテープセレクト方式
 - ・2色FLディスプレイ
 - ・コンピュリ³端子付

※ドルビーノイズリダクション及びHX-PROヘッドルームエクステンションは、ドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX-PROはバングアンドオルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号  及びHX-PROはドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの登録商標です。

ステレオを聞くときのエチケツト



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケツトのシンボルマークです。

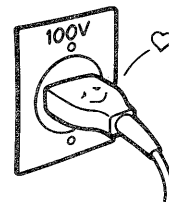
正しくお使いになるには

使用上のご注意

電源について

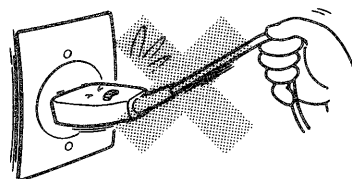
- 家庭用コンセント(AC 100V)につないでお使いください。

電源周波数は50Hzまたは60Hzのどちらの地域でもそのまま使用できます。

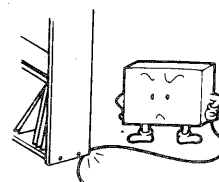


電源コード・プラグの取扱い

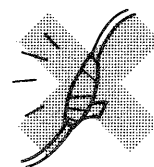
- 電源コードを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。コードを引っ張ったりぬれた手でさわるとショートや感電の恐れがあります。



- 電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因となります。



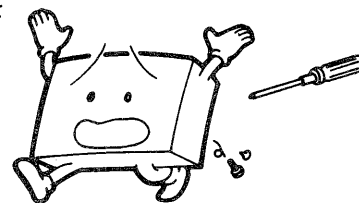
- 電源コードの継ぎ足しは、火災や感電の原因となります。電源コードやプラグの修理は販売店にご依頼ください。



- 異常や不具合が起きたら

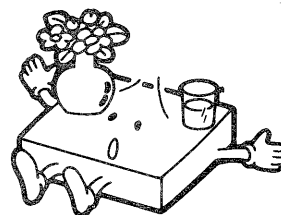
万一、異常や不具合が発生したときは、電源コードをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

キャビネットをあけて内部には触れないでください。



水などがこぼれたとき

セットの上に花瓶など水の入った容器を置かないでください。万一内部に水が入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

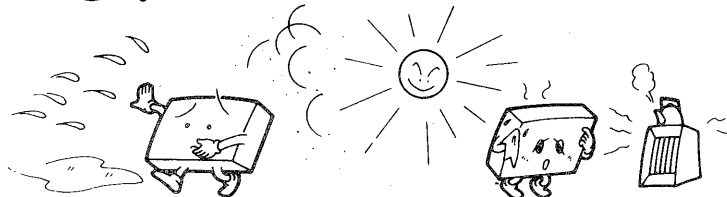


■ 電源コードは、安全のため時々点検することをお勧めします。

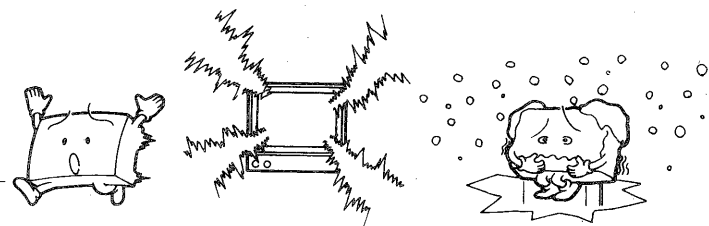
- ・コンセント部分がホコリなどで汚れていないか
- ・コードに重い物がのっていないか
- ・コードがたばねたまになっていないか

使用(設置)場所の環境について

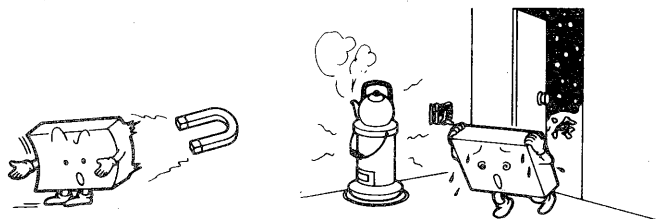
- 故障などを防止するため次の場所は避けてください。



・湿気やほこりの多い所 ・直射日光が当たる所や暖房器のそば



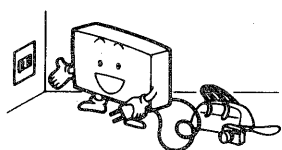
・アンプやテレビのすぐそば ・極端に寒い所
・不安定な所



・磁気の発生する所 ・寒い所から急に暖かい部屋への移動
・振動の激しい所

●長時間使用しないときは……

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。



「本機は電源を“スタンバイ(切)”にしても、わずかな電流が流れています。節電に心がけましょう」

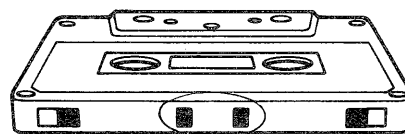
●外国での使用は……

本機は日本国内用ですので電源電圧・電源周波数の異なる外国では使用できません。

お使いになれるテープは

- オートテープセレクト方式になっていますので、テープの種類は自動的に判別されます。

本機でお使いになれるカセットテープは次のものです。

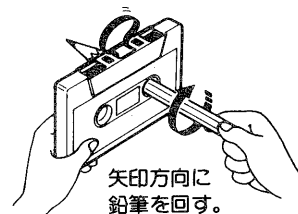


検出穴 B 検出穴 A 検出穴 B

タイプ	検出穴 A	検出穴 B
バイアス ^{メタル} _{タイプ} BIAS : METAL (TYPE IV) EQ : 70 μ s	あり	あり
バイアス ^{ハイ} BIAS : HIGH (TYPE II*) EQ : 70 μ s	なし	あり
バイアス ^{ノーマル} BIAS : NORMAL (TYPE I) EQ : 120 μ s	なし	なし

カセットテープの取り扱いかた

- ・テープにたるみがあると、巻き込んだり、故障の原因になります。使用する前に右図のようにしてたるみを取り除いてください。
- ・テープを引き出したり、テープ面にふれないでください。
- ・C-120タイプのテープは薄いので、できるだけ使用しないようにしてください。



矢印方向に鉛筆を回す。

主な特長
正しくお使いになります

カセットテープの保管

カセットテープはケースなどに納め、次のような場所はさけて保管してください。

- 湿気やホコリの多い所
- 直射日光が当たる所や暖房器のそば
- テレビの上やスピーカーの上など、磁気の影響を受けやすい所

■*ハイポジション(略称ハイボジ)テープのことです。

■フェリクロムテープ(TYPE III)は特性が合いませんので使用しないでください。

各部の名前

— □内の数字のページに説明があります。—

電源ボタン

電源の“入↔スタンバイ(切)”
ができます。

表示窓

テープカウンター表示 ⑭ (デッキ A)

通常は 4 ケタのテープカウンターです。
選曲時は選曲数が表示されます。

メカモード表示 (デッキ A)

ダビングモード表示 ⑮

- ・定速ダビング：DUBBING>
- ・倍速ダビング：DUBBING>>が表示されます。

ピークレベルメーター ⑬

エッジエックス プロ

HX PRO 表示(デッキ B)

デッキ B の録音時に自
動的に表示されます。

リバースモード表示

テープカウンター表示 (デッキ B)

メカモード表示(デッキ B)

コンテニユアスプレイ表示 ⑨

デッキ A・B の連続再生
のとき表示されます。

カセットホルダー(デッキ A)

電源スタンバイランプ

電源“スタンバイ(切)”のとき点灯します。

カセットホルダー(デッキ B)

ヘッドホン端子

ヘッドホン(標準プラグ仕様)をつなぎます。

カウンターリセットボタン(デッキ A)

表示窓のテープカウンター表示を“00 00”にす
るとき使います。

録音レベル調節つまみ

録音時の入力レベルが調節できます。⑬
ダビング時は使用しません。

リバースモードスイッチ

- ↔：片道の録音・再生
- ↔：往復の録音・再生
- ↻：連続再生 ⑨

カウンターリセットボタン(デッキ B)

■リバースモードを↻にして録音してもリバース方向の巻き終わりで自動停
止します。録音中は↻が表示窓に表示されます。

■ピークレベルメーター上の 0 VU や □□ 表示は…

- ・ 0 VU：従来の EIAJ の基準レベル(160nWb/m)
- ・ □□：ドルビー NR の基準レベル
- ・ 0 dB：IEC (JIS 新 EIAJ) の基準レベル(250nWb/m)を表しています。

カセット操作ボタン(デッキ A)

◀▶ (テープ走行方向)

: テープの走行方向を変えるとき

取出し ▲ : テープを取り出すとき

◀◀ : 左方向早巻き

選曲中に押すと飛越したい曲数が設定できます。

⑪

▶▶ : 右方向早巻き

選曲中に押すと飛越したい曲数が設定できます。

⑪

プレイ
PLAY

: 再生するとき ⑧

◀◀ または ▶▶ ボタンを再生中に押すとミュージックスキャンができます。⑪

■ (停止) : テープをとめるとき

カセット操作ボタン(デッキ B)

■ (停止/ダビング停止)

: テープをとめるとき

デッキ B の ■ ボタンをダビング中に押すと、デッキ A・B が一緒に停止します。⑮

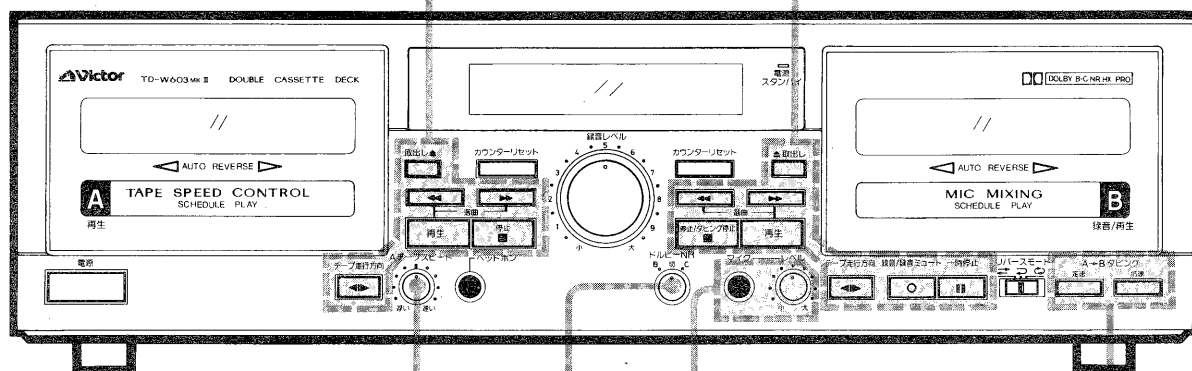
○ (録音/録音ミュート)

: 録音するときこのボタンを押しながら再生ボタンを押します。録音中に押すと約 4 秒のあき(ブランク)が作れます。⑭

|| (一時停止)

: テープ走行を一時的にとめるとき押します。再生ボタンを押すと解除されます。

・他のボタンはデッキ A と同じ働きをします。



A テープスピード調節つまみ

デッキ A で再生するときのテープ速度が変えられます。中央の ■ 表示位置が標準速度です。

ドルビー NR スイッチ

テープの NR モードに合わせて使います。⑧
テープのヒスノイズ(シャーという音)を低減して録音するとき "B" または "C" に合わせます。⑫

ダビングボタン (A→B) ⑮

デッキ A の音をデッキ B に録音するとき使います。

- ・定速 : 音質を重視するとき
- ・倍速 : 短い時間でダビングするとき

マイク端子とレベル調節つまみ

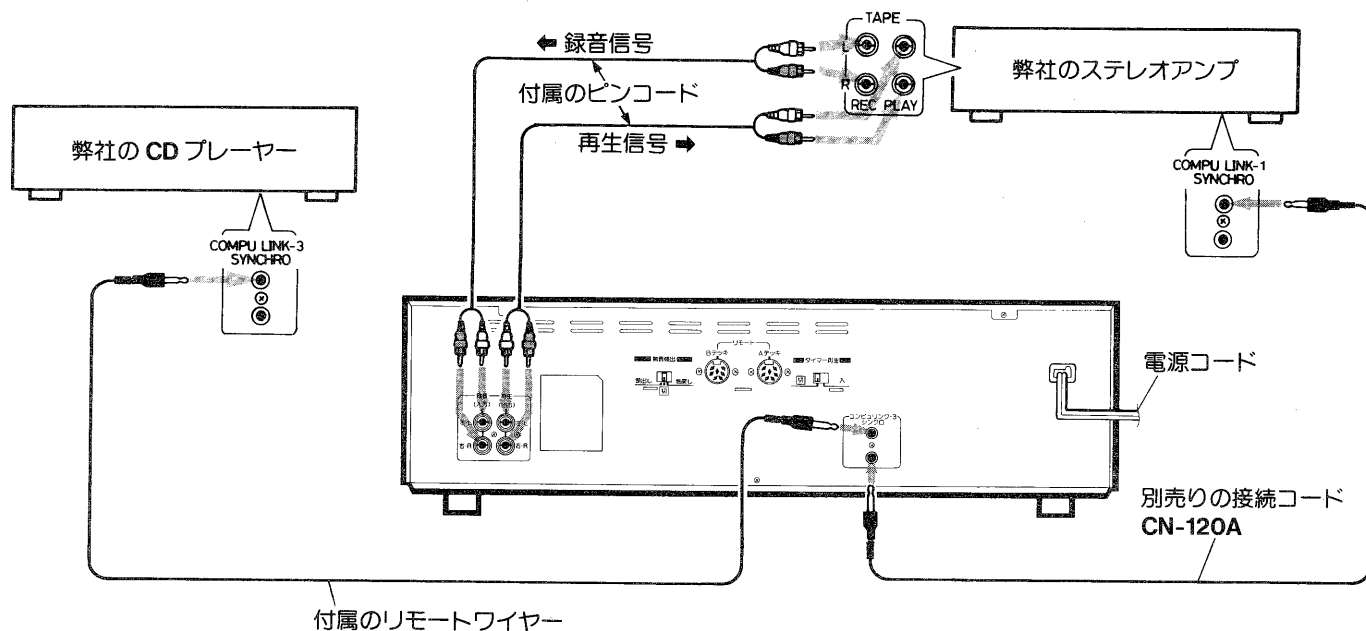
標準プラグ仕様のマイクロホンをつなぎます。テープの音、ライン入力の音とミキシングできます。レベル調節つまみでマイク音量が調節できます。⑯

■ダビングとは…
一度テープに録音した音を、別のテープに再録音することをいいます。良い音で録音するため、ダビングはマスターテープから録音しましょう。

接続のしかた

— すべての接続が終わるまでは電源を入れないでください。—

ステレオアンプや CD プレーヤーと接続するには……



● CD プレーヤーとシンクロ録音するときは…

付属のリモートワイヤーでデッキ部と CD プレーヤーの

COMPU LINK-3 (または **COMPU LINK-1**) **SYNCHRO** 端子をつなぎます。

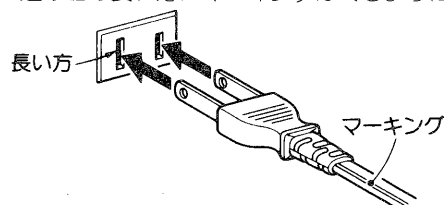
● コンピュリンク機能について

詳しくは 7 ページをご覧ください。

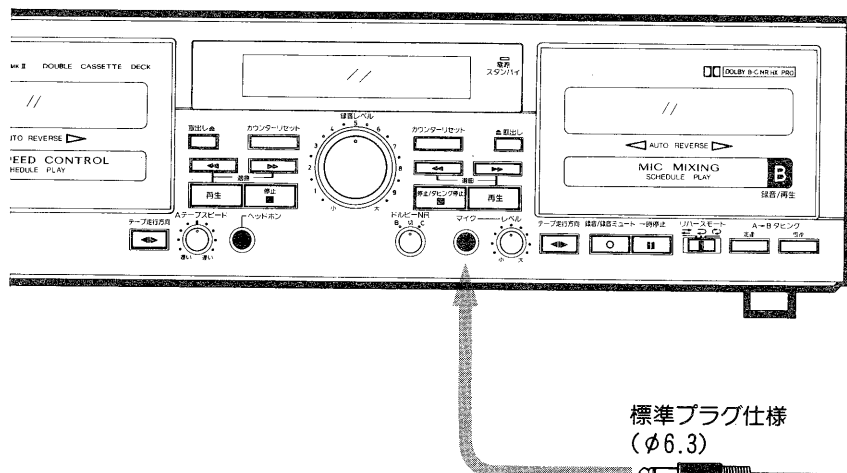
電源コードの接続について

本機の電源コードには白いマーキングが片側に入っています。これは各機器の電源コードの極性を合わせることによってシステムとしての極性を合わせ、よりよい音質を得るためのものです。

屋内配線や電源事情により異なりますが、一般的にはコンセントの差し込み口の長い方にマーキングがくるように差し込みます。



マイクの接続



マイクロホン(市販品)

- マイクロホンに **ON/OFF** スイッチがあるときは、"**ON**" にして使います。
- プラグを抜き差しするときは、レベル調節つまみを絞っておいてください。

● 付属のピンコードは白色のプラグを左チャンネルに、赤色のプラグを右チャンネルに挿入しておきますと、接続ミスが防げます。

● プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。

● 本機の設置について
ステレオアンプと直接重ねたりテレビのそばに設置すると、雑音(誘導ノイズ)が生ずることがあります。ステレオアンプやテレビとは間隔をとってご使用ください。

コンピュリンク機能について

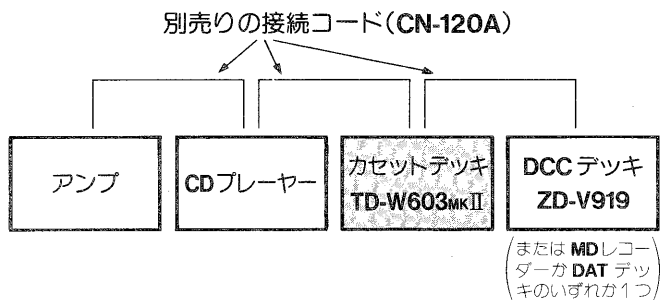
● コンピュリンクとは

単品コンポーネントでありながら、一体型コンポのような簡単操作を可能にしたのが、コンピュリンク・リモート・コントロール・システム(略称：コンピュリンク)機能です。

COMPU LINK-3 SYNCHRO または **COMPU LINK-1 SYNCHRO** 端子を持つ各機器を

相互に接続することにより、簡単操作が実現できます。

接続

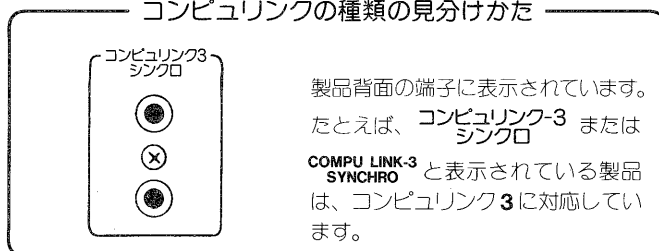


当社製品のコンピュリンクには、「コンピュリンク 3」と「コンピュリンク 1」があります。コンピュリンク 3は、コンピュリンク 1に一部の機能を追加したもので、互換性があります。

● シンクロ録音

ソースの再生開始に同期して録音が自動的に開始します。

コンピュリンクの種類の見分けかた

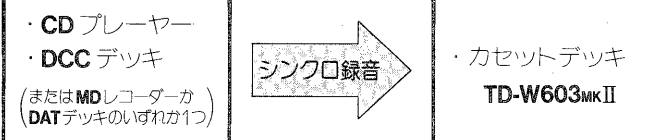


操作のしかた

● シンクロ録音するには

ソース機器

録音する側の機器



例：CD プレーヤー → カセットデッキ

- 1 CD プレーヤーに CD を入れる
・ プログラム順に録音したいときはプログラムする。
- 2 デッキに録音用のテープを入れる
- 3 デッキの ○ と II ボタンを同時に押して「録音・一時停止」にする
・ 必ず停止状態から操作する。
- 4 CD プレーヤーの PLAY ボタンを押す
・ CD の演奏とデッキの録音が自動的にスタートします。

接続のしかた
コンピュリンク機能について

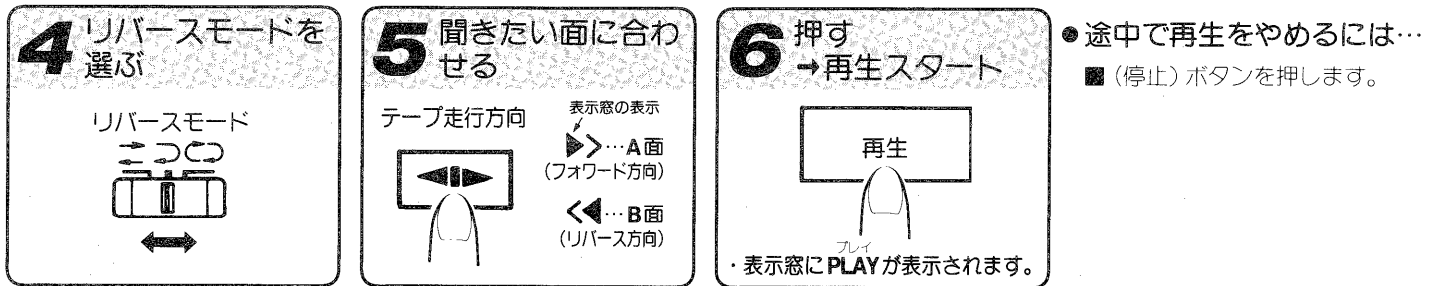
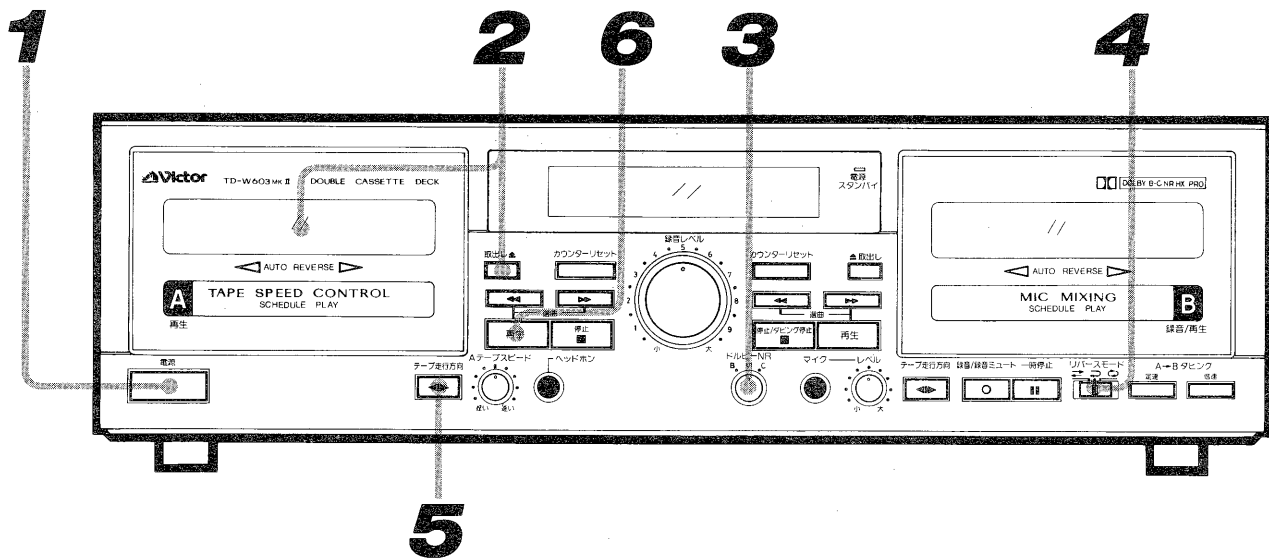
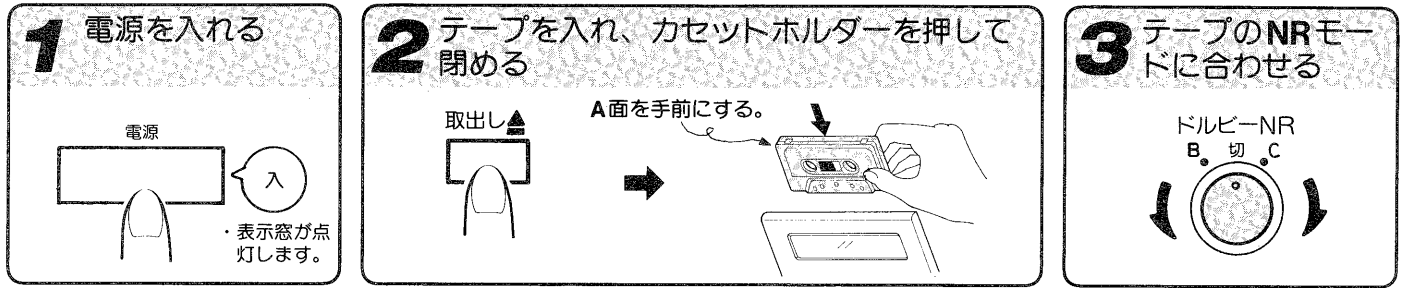
■ CD をプログラムすると、シンクロ録音中の曲間には約 4 秒のあきが自動的に作られます。

テープを聞くには(再生)

— 番号順に操作します。—

準備

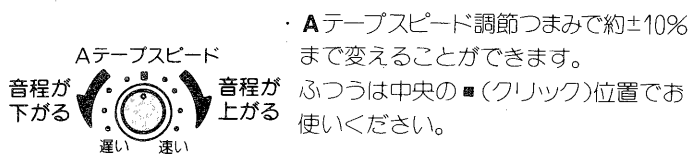
- ぶつうに使うときは、裏面の無音検出スイッチやタイマー再生スイッチを“切”にしておいてください。
- テッキ A で聞く場合の操作です。テッキ B で聞くときは 2～6 の操作をそれぞれテッキ B で行います。



●再生中にもう一方のテッキを再生状態にすると…

再生中のテッキは自動停止し、後から再生ボタンを押した方のテッキの再生が始まります。

●テープの速度を変えるには(テッキA)



●ワンタッチでテープを再生するには

カセットテープが入っているとき再生ボタンを押すと、自動的に電源が入り再生がスタートします。

ご注意

- 背面の無音検出スイッチが「頭出し」側になっていると、リバースモードスイッチを↔(連続再生)位置にしても、動作および表示窓の表示は自動的に↔(往復の再生)と同じになります。

- テープ走行中にAC電源が“OFF”になると、テープの取り出しはできません。もう一度電源を入れてから取り出してください。
- ドルビーNRシステムを使用しないときは、ドルビーNRスイッチを“切”にしておきます。

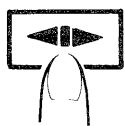
コンテニューアスプレイ (連続再生)

- デッキ A・B を交互にくり返して再生することをコンテニューアスプレイ(連続再生)といいます。

1 デッキ A・B にテープを入れる (A面を手前にする)

2 聞きたい面に合わせる

テープ走行方向



▶▶…A面
(フォワード方向)
◀◀…B面
(リバース方向)

3 「◀▶」に合わせる

リバースモード



4 押す→コンテニューアスプレイスタート



・先に聞きたい方のデッキのボタンを押す。
表示窓に **CONT** が表示されます。

⋮

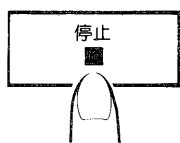
- ・デッキ A と B のテープ A・B 面がくり返して再生されます。
- ・待機中のデッキのテープ交換ができます。

● テープの NR モードは…

デッキ A・B とも同じ NR モードのテープをお使いください。

NR モードが違うときは、テープに合わせてドルビー NR スイッチを切換えてください。

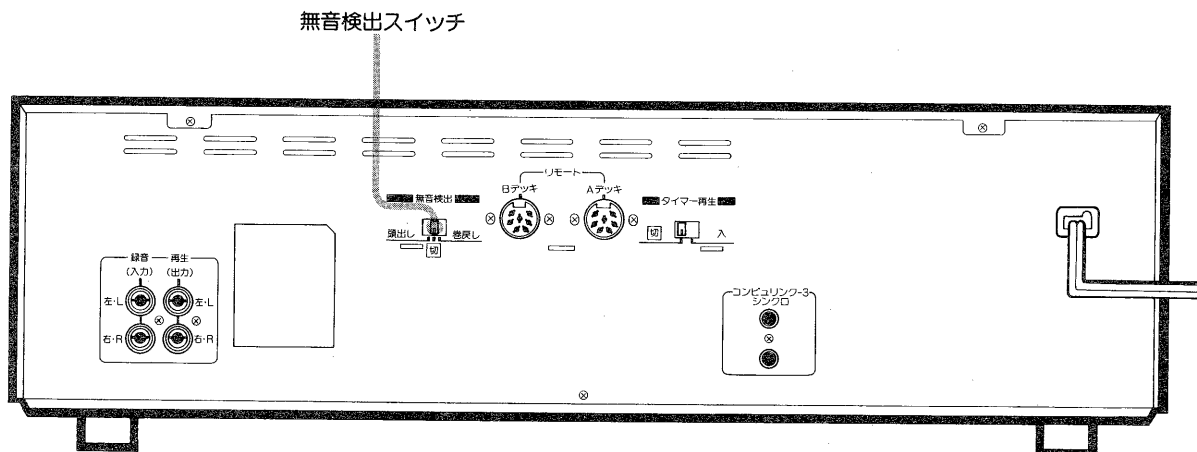
● コンテニューアスプレイをやめるには…



・再生中のデッキの ■ (停止) ボタンを押します。
例：デッキ A の場合です。

テープを聞くには(再生)(つづき) — 番号順に操作します。 —

- 無音検出スイッチと別売りのオーディオタイマーを併用すると、いつも一定の部分から再生ができて便利です。これを **SCHEDULE PLAY** ^{スケジュール プレイ} といいます。



無音検出巻戻し — 朝礼などの定例放送に便利 —

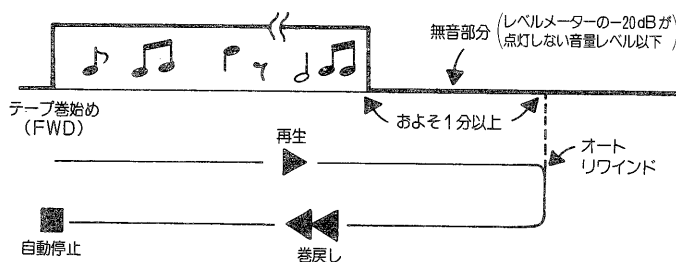
再生中に1分以上の無音部分を検出すると、自動的に巻戻し状態になりテープの巻始めで自動停止します。

1 無音検出スイッチを「巻戻し」側にする

■ 無音検出 ■



2 タイマー再生をする → 18 ページ参照



- タイマーで電源が入るごとに、いつもテープの巻始めから再生することができます。
- 電源「入」のとき再生ボタンを押して使うこともできます。
- 頭出し動作を確実にするため、最初の無音検出動作は、必ず **FWD** 側からスタートしてください。
- ダビング中は無音検出が働きません。
- マイクが接続してあるときは、マイクのスイッチを「OFF」にするかまたはプラグを本機から外しておいてください。無音検出が正しく動作しないことがあります。
- フェードアウトする曲や音量レベルの低い曲は、無音検出が正しく動作しないことがあります。

無音検出頭出し — 時間ごとに放送を変えるときに便利 —

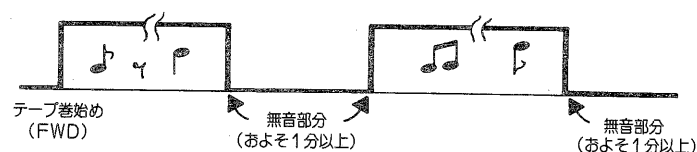
再生中に1分以上の無音部分を検出すると、自動的に頭出し（ブランクスキップ）状態になり次の曲の頭で自動停止します。

1 無音検出スイッチを「頭出し」側にする

■ 無音検出 ■



2 タイマー再生をする → 18 ページ参照



- 1日にON/OFFが2回以上できるプログラムタイマーを使うと、電源が入るごとに違う内容が再生できます。
- 電源「入」のとき再生ボタンを押して使うこともできます。
- 無音検出頭出しとリバースモードについて
 - ・ のとき：片面のみで動作
 - ・ のとき：A面からB面にまたがって動作
 (動作中にテープの巻終わりで自動停止したときは、巻始めに戻りますので、毎日同じ内容のくり返し再生ができます)

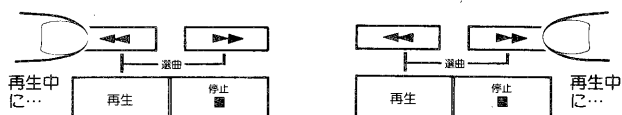
- 無音検出スイッチを「頭出し」側にする、リバースモードスイッチが のときでも、動作および表示窓の表示は自動的に と同じになります。連続再生にはなりません。

ミュージックスキャン (自動選曲)

- ミュージックスキャンとは(前後99曲まで可能)
曲と曲の間の何も録音されていないあき(4~5秒以上のブランク)を検出することによって曲の頭出しをする機能です。

1 再生中に ▶▶ または ◀◀ ボタンを押す (P Q 1 が表示され1曲選曲になります。)

- ・今聞いている曲の頭出し (巻戻し選曲)
- ・次の曲の頭出し (早送り選曲)



選曲中は **PLAY** 表示が点滅します。

- 次のような場合、ミュージックスキャンが正しく働かないことがあります。故障ではありません。

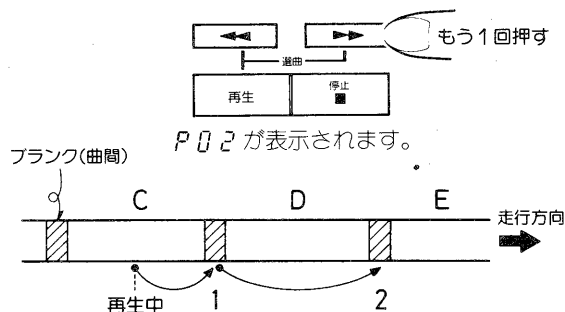
- ・曲間のあき(ブランク)が **4** 秒以下のとき
- ・曲間に大きな雑音(ノイズ)が録音されているとき
- ・左右のチャンネルに全く別の内容が録音されているとき (音多カラオケテープや語学テープの先生と生徒の声など)
- ・ピアノシモのように非常に小さな音が続くとき

デッキ B の場合

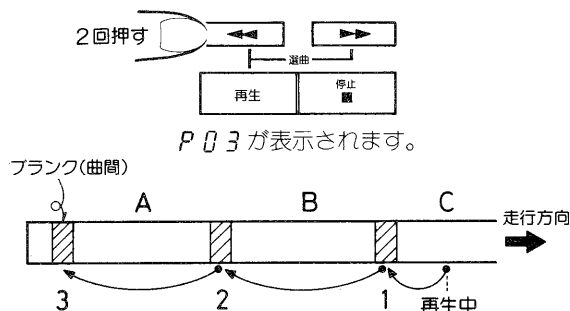
一時停止中に ▶▶ (または ◀◀) ボタンを押すと、選曲が終わったあと一時停止状態に戻ります(■表示が点灯)。ただし録音・一時停止中に操作すると早送り(巻戻し)になります。

2 2曲以上のときは選曲中に ▶▶ または ◀◀ ボタンで曲数を設定する

- ・例：2つ後の曲の場合



- ・例：2つ前の曲の場合



続けて押すと前後99曲までの多曲選曲ができます。

3 希望する曲の頭を検出すると自動的に再生が始まります

- ・デッキ A・B で操作できます(ただし同時に操作することはできません)。操作例はデッキ A のフォワード方向の場合です。
- ・本機はテープの走行方向に対し、順方向は早送り選曲、逆方向のときは巻戻し選曲になります。

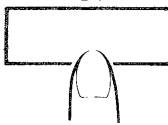
テープを聞くには(再生)のとき

録音するには (デッキ B を使います) — 番号順に操作します。—

準備

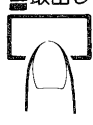
- カセットの誤消去防止用のツメが折れていないことを確かめます。
- リーダーテープの部分は先に送っておきます。

1 電源を入れる

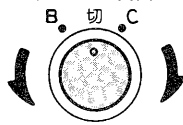


・表示窓が点灯します。

2 テープを入れる (A面を手前に)



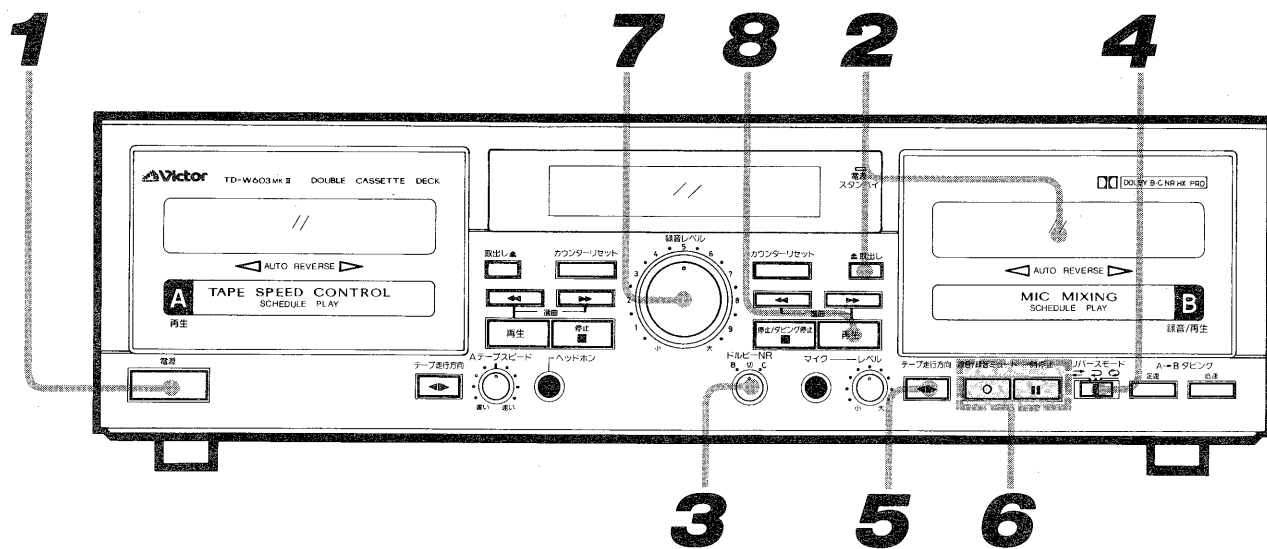
3 NR モードを決める



4 リバースモードを選ぶ

↺ : 往復の録音

↻ : 片道の録音



5 録音したい面に合わせる

テープ走行方向

表示窓の表示

▶▶…A面 (フォワード方向)

◀◀…B面 (リバース方向)

6 録音・一時停止にする

録音/録音ミュート 一時停止



・表示窓に REC と II が点灯します。

7 録音レベルを調節する → 13 ページ参照

・テープの種類に合わせて調節する。

8 押す → 録音スタート

再生

・表示窓の PLAY が点灯になります。

DOLBY NR システムについて

- ・サーというテープのヒスノイズを低減する目的で開発されたのがドルビー NR システムです。
- ・ドルビー NR システムの B タイプは一般普及用で、C タイプは B タイプよりノイズ低減効果が高くなっています。
- ドルビー NR システムは、雑音が目につきやすい高域の部分をやや強めて録音し、再生時にその分だけ弱めて元に戻します。このとき、テープのヒスノイズもいっしょに弱めるため、音質は変化せずに、弱めた分だけノイズが低減されます。
- 高域だけのノイズを低減すると、中低域のノイズが目立つので、C タイプでは、B タイプよりも低い帯域からノイズ低減を行っています。

ドルビー HX-PRO とは…

- 高域成分を多く含んだソースを録音すると、その高域信号がバイアスとして作用するため実効的なバイアス電流が変化してしまいます。このため、低域信号のレベルやひずみが変化したり、高域信号の飽和レベルが低くなるなどの現象が生じます。
- ドルビー HX-PRO は、入力信号の高域成分の変動に対応して実効バイアスが一定になるようバイアス電流をコントロールするシステムで、低域信号のレベルやひずみの変化を低減させるとともに、高域信号の飽和レベルを大幅に改善することができます。
- ・ドルビー HX-PRO は、録音時に自動的に働きます。このシステムを使って録音したダイナミックな音は、ドルビー HX-PRO のないデッキで再生しても同じ効果が得られます。
 - ・ドルビー HX-PRO はノイズリダクションではありません。

■録音時と再生時でドルビー NR スイッチの位置が異なりますと音質が変わりますのでご注意ください。

■ドルビー NR システムを使用しないときは、ドルビー NR スイッチを「切」にしておきます。

■*リーダーテープにご注意

カセットテープの始めには、リーダーテープ(録音できない部分)があります。録音するときは、あらかじめ再生状態でリーダーテープを巻き取っておいてください。

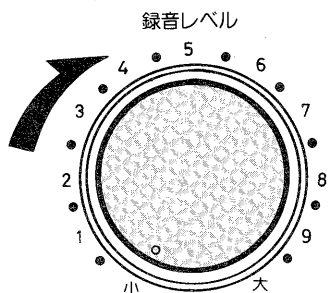
録音レベルの調節

録音レベルの調節のしかた

1 ○とII ボタンを押して録音・一時停止にする

・接続したステレオアンプ等进行操作し、録音したい音を出す。

2 録音レベルを調節する



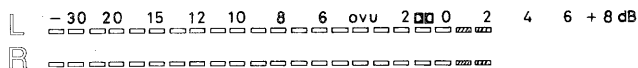
・レベルメーターを見ながら下記のように合わせる。

● ノーマルテープ (TYPE I) の場合 ● ハイポジションテープ (TYPE II) の場合



一番大きい音が入力されたとき、「0 dB」が点灯するように合わせます。

● メタルテープ (TYPE IV) の場合



一番大きい音が入力されたとき、「+2 dB」が点灯するように合わせます。

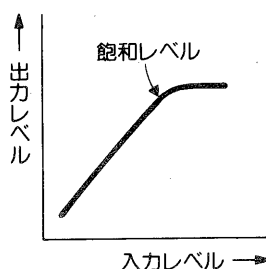
上手な録音レベルの設定とは……

お使いになるテープの飽和レベル*ぎりぎりに録音の最大レベルを合わせることです。

- 録音レベルが低すぎるとテープ特有の雑音（ヒスノイズ）が目立つ録音になります。
- 録音レベルが高すぎて飽和レベルを超えると音が割れたひずみの多い録音になります。

飽和レベルはテープの種類によって異なります。

* 飽和レベルとは……

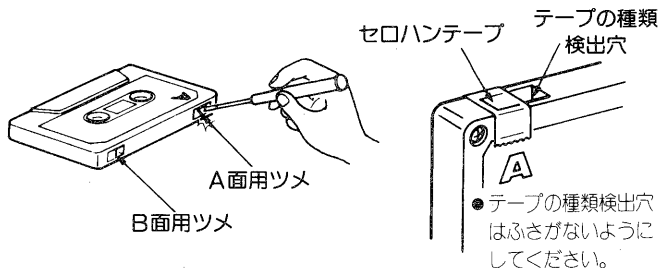


録音入力をだんだん大きくしていくと、出力はこれに比例して大きくなります。しかし、ある一定のレベルに達すると出力はふえなくなり、それ以上の入力を加えると出力はひずんでしまいます。このときのレベルを飽和レベルといいます。

大切な録音を消さないために

カセットテープには誤消去防止用のツメ(タブ)がついています。

- ツメを折っておくと録音(消去)ができなくなり、誤って消してしまうことが防げます。
- 再び録音したいときはツメの穴をセロハンテープなどでふさぎます。



- テープの種類検出穴はふさがないようにしてください。

録音するには(つづき)

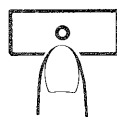
曲間にあきを作るには — 録音ミュート —

- ・ 録音中の不要な部分をカットしたり、曲間に適度なあき(ブランク)を作るときは、○(録音/録音ミュート)ボタンを使うと便利です。

録音中に約 4 秒のあきを作るには

あきにしたいところで

録音/録音ミュート



- ・ 「ボン」と押して離す。



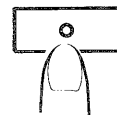
- ・ 約 4 秒後にテープが自動停止し録音・一時停止状態になります。



録音中に 4 秒以上のあきを作るには

あきにしたいところで

録音/録音ミュート



- ・ 4 秒以上押し続ける。
(無音検出動作に使うテープを作るときは、およそ 1 分程度押し続けてください。)



- ・ 指を離すとすぐにテープが自動停止し、録音・一時停止状態になります。



ちょっと一言

録音した音を消すには(消去)

録音済みのテープに新しく録音すると、前の音は自動的に消えて新しい録音のみになります。

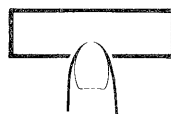
● 無音テープにするには

⑫ ページの録音操作で 7 の録音レベル調節つまみを“小”位置にして録音します。

カウンターリセットボタンの使いかた

録音する前にカウンターをリセットしておくとう便利です。

カウンターリセット



00 00

- ・ 録音中、曲の頭のカウンター数字をメモしておきます。

● 4 秒以下のあきにするには…

- (録音/録音ミュート)ボタンを押したのち、一時停止になる前に再生ボタンを押します。再び録音状態に戻ります。

ダビングするには (デッキA からデッキB に録音できます) 番号順に操作します。-

準備

- あらかじめデッキ A で再生する曲の頭出し (ミュージックスキャン) をしておくとう便利です。
- ダビングを始めるときは、デッキ A・B とも停止状態になっていることを確認してください。

1 電源を入れる

2 テープを入れダビングしたい曲の面に合わせる

テープ走行方向

▶▶...A面 (フォワード方向)
◀◀...B面 (リバース方向)

・デッキ A です。

3 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

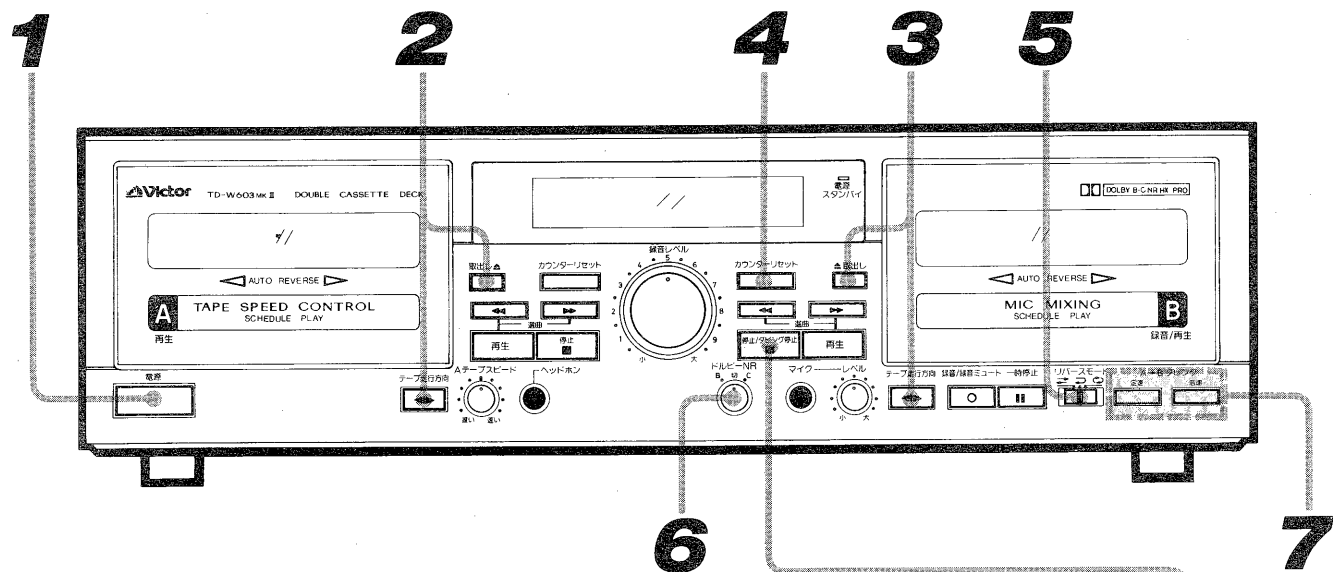
テープ走行方向

▶▶...A面 (フォワード方向)
◀◀...B面 (リバース方向)

・デッキ B です。

4 カウンターを「00 00」にする

カウンターリセット



5 リバースモードを選ぶ

↔ : 片面だけのダビング
↶ : A面からB面にまたがってダビング
↷ : テッキBのテープが巻き終わるまで

6 「切」にしておく

ドルビーNR
B. 切 C.

・再生側テープと同じ NR モードになります。

7 押す→ダビングスタート

A→B ダビング

定速 倍速

定速ダビング DUBBING> 倍速ダビング DUBBING>>

●途中でやめるとき押す

停止/ダビング停止

・デッキBが先に自動停止するとダビングは解除されます。

●録音レベルの調節は必要ありません。

再生側(デッキA)のテープと同じレベルでダビングされます。録音レベルの調節はできませんので、できるだけデッキA・Bとも同じ種類のテープをお使いください。テープの種類が異なりますとレベルが大きすぎたりすることがあります。

●シンクロダビングとは...

デッキAの再生開始に同期してデッキBの録音が始まることをシンクロダビングといいます。定速又は倍速のいずれかが選択できます。

●ダビング中にデッキAをとめると...

デッキBは自動的に約4秒のあき(ブランク)を作ったのち録音・一時停止状態になります。再びダビングしたいときは、定速又は倍速ボタンを押してください。

- ダビング中の音を聞きたいときは...
接続しているステレオアンプ等をテープ再生のモードにします。
ドルビーNRはダビング中、自動的に「OFF」になります。
- 倍速ダビング時はAテープスピード調節つまみが働きます。

- ダビング時の注意
ご使用になっているテレビによっては、倍速ダビング時に妨害(ピー音)を受けることがあります。このようなときはテレビの電源スイッチを切るか、または定速ダビングにしてご使用ください。
- 音質を重視するときは定速ダビングをおすすめします。

録音するには(つづき)
ダビングするには

マイクミキシングするには

— 番号順に操作します —

ライン入力の音とミキシング録音するには

準備

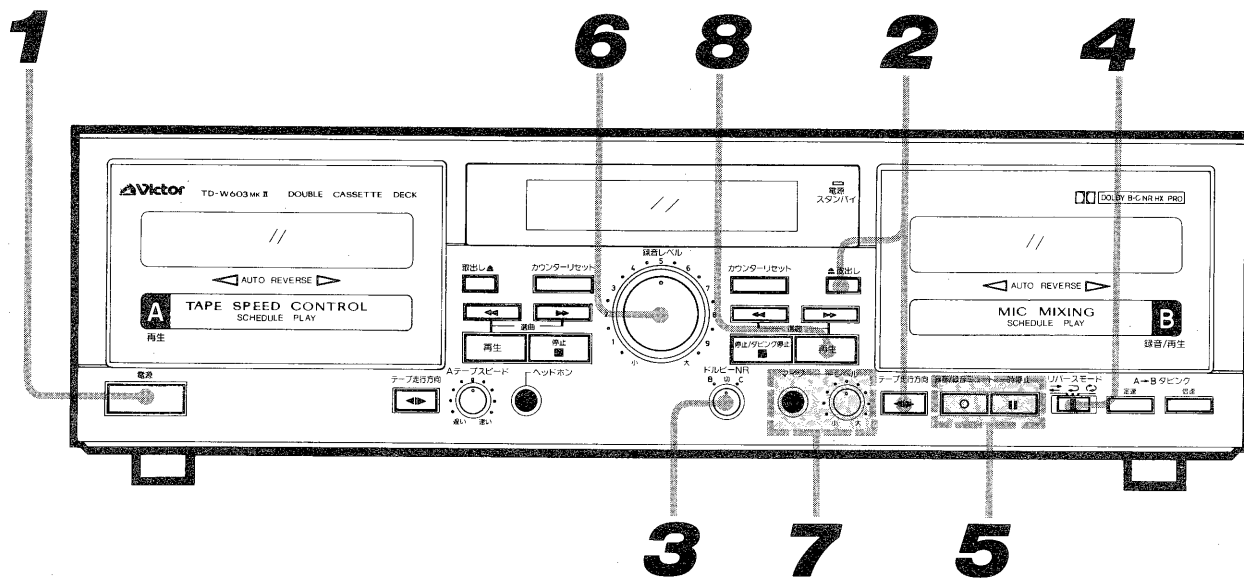
- マイクをつないでおく。→ ⑥ページ参照
- 接続したステレオアンプ等を操作し、ミキシングしたい機器の音を出す。

1 電源を入れる

2 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

3 テープのNRモードを決める

4 リバースモードを選ぶ



5 録音・一時停止にする

6 録音レベルを調節する→13ページ参照

7 マイク音量を調節する

8 押す→ミキシング録音スタート

●マイクの音だけ録音するには…

上記 ⑥ の操作のとき、録音レベル調節つまみを“小”位置にして録音するとマイクの音だけ録音することができます。

●拡声器として使うには…

録音・一時停止の状態にしてマイク音量を適度に調節してお使いください。録音レベル調節つまみを“小”位置にするとマイクだけの音になります。

●途中でミキシング録音をやめるときは……

デッキ B の ■（停止/ダビング停止）ボタンを押します。

●マイクの正しい使いかた

- ・マイクは口元から 2～3cm 位離して使いましょう。
- ・マイクを吹いたりたたくと故障の原因になりますのでやめましょう。

- スピーカーから「ピー」という音が出るときは、マイク音量を下げるカスピーカーから離して使います。

テープの音とミキシングしながら録音するには(マイクミキシングダビング)

準備

- マイクをつないでおく。→ ⑥ページ参照
- あらかじめデッキ A で再生する曲の頭出し(ミュージックスキャン)をしておくと便利です。

1 電源を入れる

・表示窓が点灯します。

2 テープを入れミキシングしたい曲の面に合わせる

テープ走行方向

▶▶…A面 (フォワード方向)
◀◀…B面 (リバース方向)

・デッキ A です。

3 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

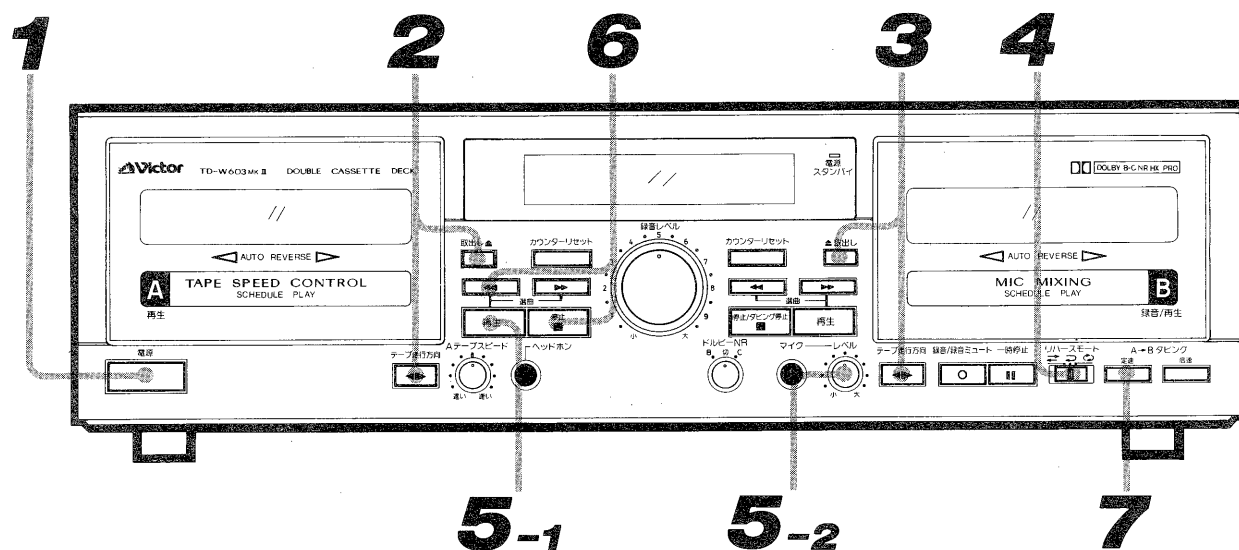
テープ走行方向

▶▶…A面 (フォワード方向)
◀◀…B面 (リバース方向)

・デッキ B です。

4 リバースモードを選ぶ

↔ : 片面の録音
↶ : 往復の録音



5 テープを再生しマイク音量を調節する

再生 → レベル (小 大)

6 ミュージックスキャンでテープの頭出しをし、テープを止める

・テープがとまったことを確認する。

7 押す→ミキシング録音スタート

・テープ停止時に押してください。

●デッキ A のテープは

録音時は、ドルビー NR スイッチが "B" または "C" でも自動的に NR OFF になります。

●テープ再生の音とカラオケのみをしたいときは

上記の 5 まで操作し、曲に合わせて歌います。

A テープスピード調節つまみを調節すると音程を変えることができます。

●途中でミキシング録音をやめたいときは…



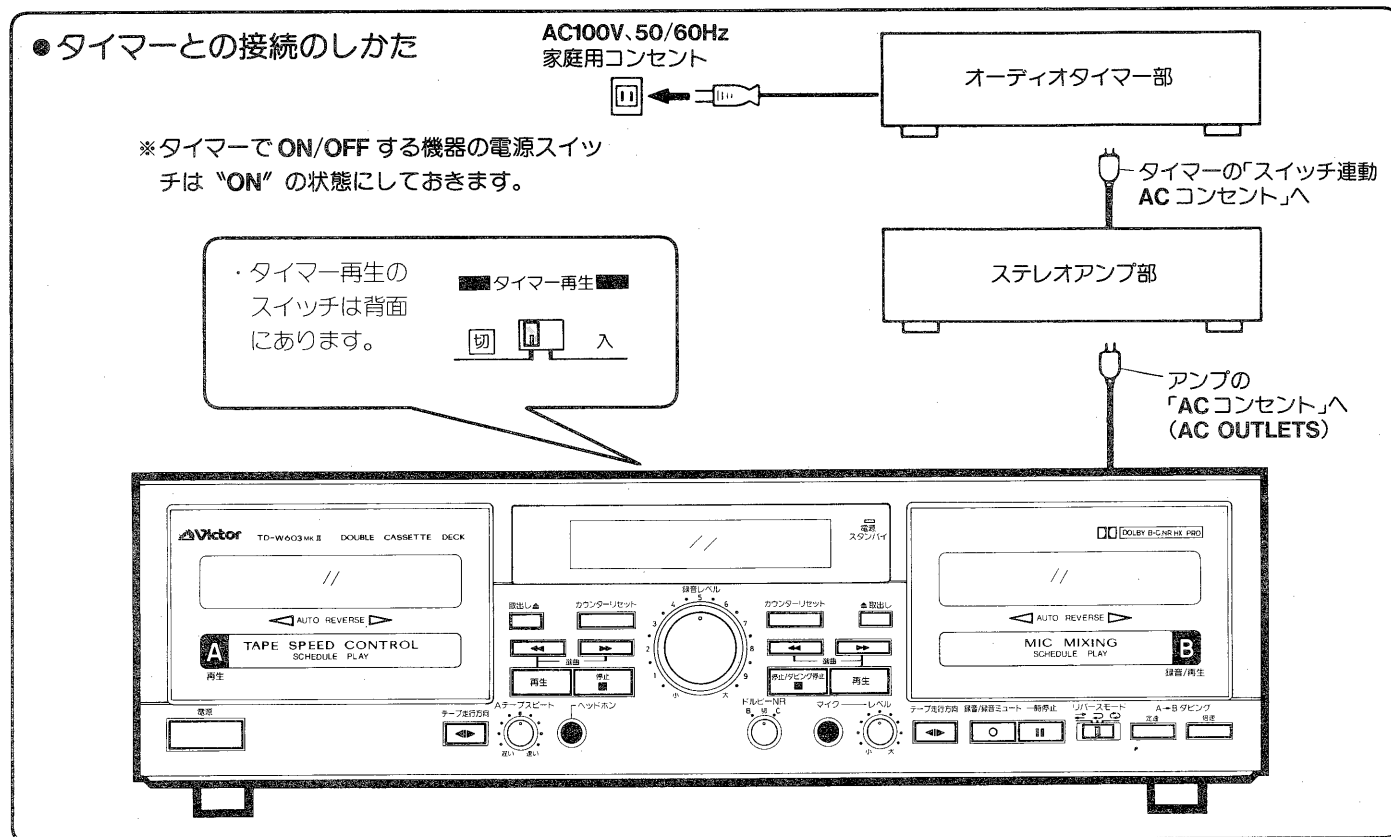
デッキ B の ■ (停止/ダビング停止) ボタンを押します。
デッキ A・B が一緒に停止します。

マイクミキシングするには

■デッキ A 又は B のテープが走行していると、定速または倍速ボタンを押しても受け付けません。必ず停止状態のとき押してください。

タイマー再生するには

- 市販のオーディオタイマーを使って、好きな時刻に再生が楽しめます。
- お使いになる前に、タイマーの取扱説明書も併せてご覧ください。



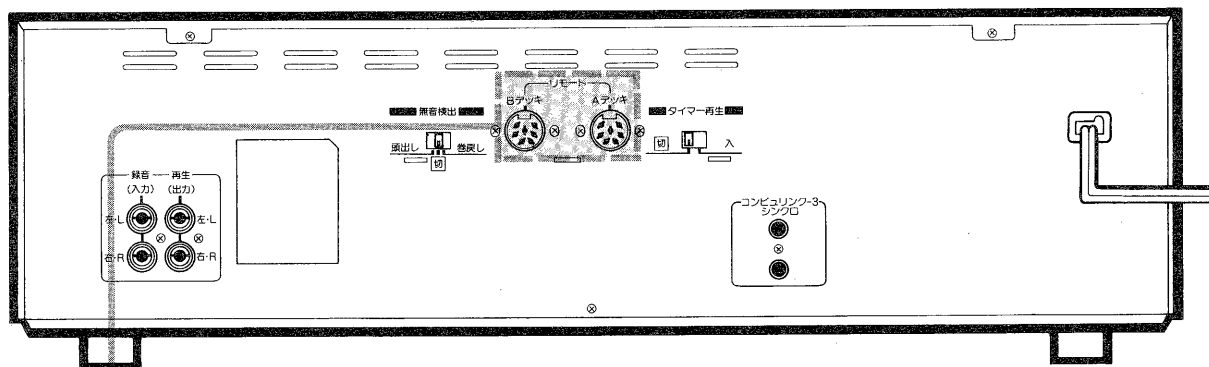
手 順	操 作
1 タイマーの操作	●タイマーに接続した機器の電源スイッチが、すべて「ON」になっているか確認します。 ●タイマーを操作して各機器の電源を入れます。
2 アンプの操作	●アンプの音量を調節します。 ●テープ再生のモードにします。
3 デッキの操作	●聞きたいテープを入れ、再生のための操作をします。→ 8 ページ参照 (・デッキA・Bにテープを入れ、リバースモードをCにしておくとデッキB→デッキAの連続再生ができます)
4 タイマーの操作	●タイマーを操作し、再生の開始時刻と、終了時刻を予約します。 ●接続した各機器の電源が切れたことを確認します。
5 デッキの操作	●タイマー再生スイッチを「入」にします。 タイマー再生 切 入 ⋮ ●タイマーの開始時刻になると「再生」がスタートします。

■タイマー再生は、デッキBが優先して動作します。
ただし、デッキAにのみテープが入っているときは、デッキAが動作します。

■タイマー再生を使用しないときは、タイマー再生スイッチを「切」にしておいてください。
■タイマーで電源が切れると、カウンター数字は00 00にリセットされます。

リモート端子について

- このリモート端子を利用すると、外部に設置したリモートコントロール用スイッチで録音、再生、早巻き、一時停止およびテープ走行方向の切換えがリモート操作できます。



リモコンのプラグ
は U タイプに限り
使えます

・リモート端子*とその機能(本体と同じになります)

端子番号	機 能	デッキA	デッキB
①	停止 (■)	○	○
②	アース (GND)	○	○
③	再生	○	○
④	一時停止 (II)	—	○
⑤	早巻き (▶▶)	○	○
⑥	早巻き (◀◀)	○	○
⑦	録音/録音ミュート (○)	—	○
⑧	テープ走行方向 (◀▶)	○	○

*リモート端子を利用するときは……

ピクチャーサービス窓口にお問い合わせください。

(プラグの部品番号: TCP-1387-71-5011)

●リモートコントロール用のスイッチは…

各端子と②アース(GND)端子を接続することで、その間接続した端子のカセット操作ボタンが押されたのと同じ状態にします。スイッチは 1 秒程度 **ON** になるようにしてください。

・②アース(GND)端子以外は、開放状態で **DC 5V** を出力しています。アース端子と接続したときは、最大で約 **1mA** の電流が流れます。

リモート端子について

■ダビングの操作は、リモート操作できません。

■デッキ A・B は、別々のリモートコントロール用スイッチでコントロールしてください。

著作権について

あなたがテープレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断では使用できません。

放送やレコード、**CD**、テープなどの音楽作品は、音楽の歌詞や楽曲と同じく著作権法により保護されています。したがって、次のような場合には著作権法上、権利者の許諾が必要です。

- 放送やレコード、**CD**、テープなどから録音したテープを売る、配る、譲るまたは貸したりするとき
- 営利（店のBGMなど）のためにレコード、**CD**、テープなどを演奏するとき

詳しい内容や申請、その他の手続きについては「日本音楽著作権協会：JASRAC」の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

社団法人 日本音楽著作権協会(音権協)

〒105 東京都港区西新橋1-7-13
☎(03)3502-6551(大代表) FAX (03)3508-8183

●北海道支部（業務地域 北海道）

〒060 札幌市中央区北1条西3-2 大和銀行札幌ビル
☎(011)221-5088(代表) FAX (011)221-1311

●盛岡支部（業務地域 岩手・青森・秋田）

〒020 盛岡市盛岡駅前15-20 ニッセイ盛岡駅前ビル
☎(0196)52-3201(代表) FAX (0196)52-4010

●仙台支部（業務地域 宮城・山形・福島）

〒980 仙台市青葉区中央2-1-7 仙台三和ビル
☎(022)264-2266(代表) FAX (022)265-2706

●長野支部（業務地域 長野）

〒380 長野市南千歳2-12-1 日本団体生命・長野ビル
☎(026)225-7111(代表) FAX (026)223-4767

●大宮支部（業務地域 埼玉・栃木・群馬・新潟）

〒331 大宮市桜木町1-7-5 ソニックシティビル
☎(048)643-5461(代表) FAX (048)643-3567

●上野支部（業務地域 東京都の城東地区・茨城）

〒110 東京都台東区上野2-7-13 交通公社・安田火災上野共同ビル
☎(03)3832-1033(代表) FAX (03)3832-1040

●東京支部（業務地域 東京都23区の東部・千葉）

〒104 東京都中央区銀座1-15-6 共同ビル銀座1丁目
☎(03)3562-4455(代表) FAX (03)3562-4457

●西東京支部（業務地域 東京都23区の西部）

〒160 東京都新宿区新宿5-17-5 新宿中央ビル
☎(03)3232-8301(代表) FAX (03)3232-7798

●東京イベント・コンサート支部（業務地域 東京都・千葉・茨城・山梨） ※コンサートやイベントなどにおける演奏・上映等

〒160 東京都新宿区新宿5-17-5 新宿中央ビル
☎(03)5286-1671(代表) FAX (03)5286-1670

●立川支部（業務地域 東京都の市・郡部・山梨）

〒190 立川市曙町2-22-20 立川センタービル
☎(0425)29-1500(代表) FAX (0425)29-1515

●横浜支部（業務地域 神奈川県）

〒231 横浜市中区本町1-3 綜通横浜ビル
☎(045)662-6551(代表) FAX (045)662-6548

●静岡支部（業務地域 静岡）

〒420 静岡市御幸町11-30 エクセルワード静岡ビル
☎(054)254-2621(代表) FAX (054)254-0285

●中部支部（業務地域 愛知・岐阜・三重）

〒450 名古屋市中村区名駅2-45-7 松岡ビル
☎(052)583-7590(代表) FAX (052)583-7594

●北陸支部（業務地域 石川・富山・福井）

〒920 金沢市香林坊2-3-25 金沢日産生命ビル
☎(0762)21-3602(代表) FAX (0762)21-6109

●京都支部（業務地域 京都・滋賀・奈良）

〒600 京都市下京区四條通烏丸東入ル長刀鉾町8 京都三井ビル
☎(075)251-0134(代表) FAX (075)251-0414

●大阪支部（業務地域 大阪南部・和歌山）

〒542 大阪市中央区南船場4-3-11 豊田ビル
☎(06)244-0351(代表) FAX (06)244-1970

●大阪北支部（業務地域 大阪北部）

〒542 大阪市中央区南船場4-3-11 豊田ビル
☎(06)244-7077(代表) FAX (06)244-1970

●神戸支部（業務地域 兵庫）

〒650 神戸市中央区海岸通6番地 建隆ビルII
☎(078)322-0561(代表) FAX (078)322-0975

●中国支部（業務地域 広島・岡山・山口・鳥取・島根）

〒730 広島市中区胡町4-21 朝日生命広島胡町ビル
☎(082)249-6362(代表) FAX (082)246-4396

●四国支部（業務地域 香川・徳島・高知・愛媛）

〒760 高松市寿町2-2-10 住友生命高松寿町ビル
☎(0878)21-9191(代表) FAX (0878)22-5083

●九州支部（業務地域 福岡・大分・佐賀・長崎・熊本）

〒812 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル
☎(092)441-2285(代表) FAX (092)441-4218

●鹿児島支部（業務地域 鹿児島・宮崎）

〒892 鹿児島市東千石町1-38 アイムビル
☎(099)224-6211(代表) FAX (099)224-6106

●那覇支部（業務地域 沖縄）

〒900 那覇市久茂地1-3-1 久茂地セントラルビル
☎(098)863-1228(代表) FAX (098)866-5074

'95.10(E)

お手入れのしかた

ヘッド部の清掃について

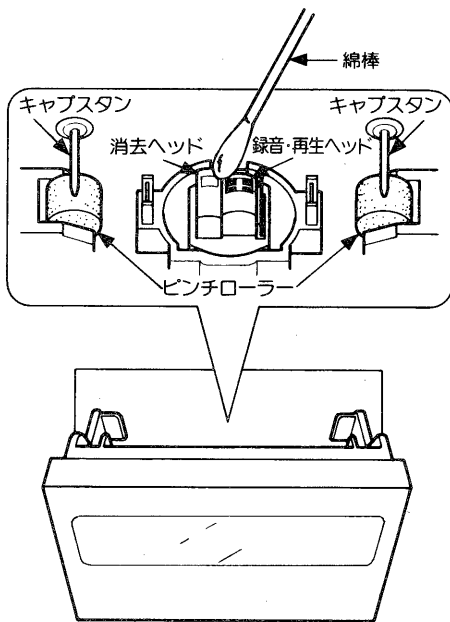
ヘッド部とキャプスタン、ピンチローラーは常にテープが接触して走りますから、磁粉やゴミ、ホコリなどが付着してよごれてきます。よごれがひどくなると

- 音質が悪い。
- 音が小さい。
- 録音ができない。
- 前の音が消えないで残る。

などの症状がでます。大切な録音を失敗しないためにも、症状がでてくる前に、定期的（約10時間使うごと）にヘッド部を清掃することをおすすめします。

●清掃のしかた

市販のクリーニングキットの綿棒にクリーニング液をしみ込ませて、ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーなどのよごれをふきとります。



この場合、内部についたアルコールなどが十分に乾いてからカセットテープを入れてください。

ヘッドの消磁

長い間本機を使っていると、テープのあたる金属部分が磁気を帯びることがあります。またヘッド部に磁気を帯びた金属（ドライバーなど）を近づけますと同じような支障が起こります。ヘッド部が磁化されると「サー」という雑音がふえたり、大切な録音済みテープの高音が消されたりします。

ヘッドや、テープのあたる金属部は、市販のヘッド消磁器で20～30時間使うごとに消磁してください。

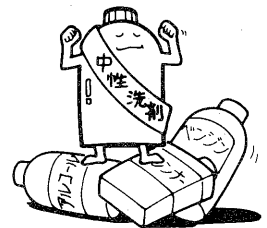
本機はカセットタイプの消磁器もお使いになれます。

この場合、アンプの音量つまみは絞ってください。音量つまみを絞らずにお使いになりますとアンプやスピーカーに悪影響を与えることがあります。

詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

キャビネットの清掃

キャビネットがよごれたら中性洗剤などでよごれを落し、かわいた布でふき取ります。シンナーやベンジンなどでふきますと、「ひび割れ」や「変色」を起こすことがありますので使用しないでください。



■キャビネット等の清掃に化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってお使いください。

こんなときは

カセットデッキの具合が悪いとき故障かな？と思ったら……

修理を依頼される前に、まず次の項目をお確かめください。

それでも直らないときは故障によることが考えられますので、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置	参 照 ページ
録音ができない。	・カセットのツメ(誤消去防止用)が折られている。	・テープを交換するか、録音内容を消してもよい場合はツメの穴をセロハンテープでふさぐ。	13
	・録音レベル調節つまみが絞ってある。	・適度なレベルに調節する。	13
テープが走行しない。	・II(一時停止)ボタンが押されている。	・再生ボタンを押して一時停止を解除する。	5
テープは走行するが再生音がない。	・ピンコードが正しく接続されていない。 ・コンピュリリンクのコードが外れている。 ・アンプの音量つまみが最小になっている。	・奥までしっかり差し込む。 ・正しく接続する。 ・適当な音量に調節する。	6
ミュージックスキャン(自動選曲)がうまく動作しない。	・曲間のブランクが短すぎる(3秒以下)。 またはブランク部分に雑音が多い。	・テープを交換してみる。	11
音が小さい。 音がふるえたり途切れる。	・ヘッドやピンチローラー、キャプスタンが汚れている。	・クリーニングする。	21
サーという雑音が聞こえる。 高音が消される。	・ヘッドが磁化されている。 (録音・再生ヘッド)	・ヘッドを消磁する。	21
前の録音が消えないで残る。	・消去ヘッドが汚れている。	・消去ヘッドをクリーニングする。	21
音質が良くない。 (高音がでない。)	ノイズダクション ・NRのモード設定が違う。	・録音時のモードに合わせて再生する。	12
雑音(ハム音)がでる。	・デッキをアンプの上または下にじかに置いている。	・アンプから離して設置する。	6

本機の実操作について

本機はマイクロコンピューターの働きで、多くの動作を行なっております。各項目の説明文・注意文を、よくお読みになって正しくお使いください。

操作によっては正常な動作をしないことがあります。このようなときは一度電源コードをコンセントから抜いておき、しばらくして再び電源を入れると正しく動作します。

- ・大切な録音の場合は、必ず事前に試し録音をして正常に録音されているかお確かめください。
- ・万一、本機およびカセットテープなどの不具合により、正常に録音されなかったり、再生できなくなった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。

■本機を極端に寒い所から暖かい場所へ急に移したとき、正常に動作しないことがあります。
これは本機の内部に露(つゆ)が発生したため、数時間しますと正常にもどります。

保証とアフターサービス (必ずお読みください)

保証書 (別添)

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
お買い上げの日から1年間

補修用性能部品の最低保有期間

ダブルカセットデッキの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は、通産省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、お買い上げの販売店または別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

出張修理

22 ページの「こんなときは」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にて修理をご依頼ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	ダブルカセットデッキ
型名	TD-W603 MK II
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
+	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
+	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

便利メモ	お買い上げ店名	〒() -
------	---------	--------

■保守・点検
本機の性能を維持するため、長時間連続してお使いになる場合、およそ1年使用をめぐりに「保守・定期点検」を受けることをお勧めします。なおこの時間は使用環境(温度、湿度、ホコリ)等に左右されます。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは
保証とアフターサービス

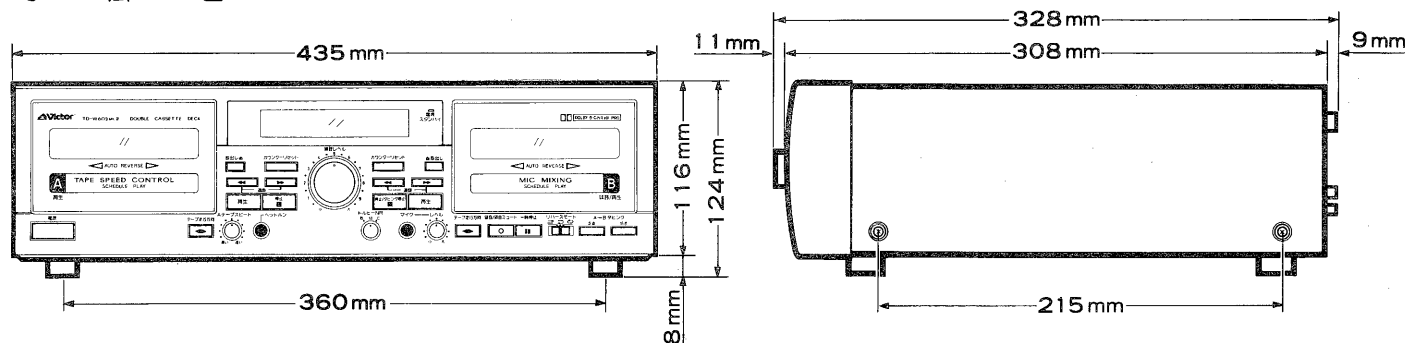
主な仕様

— 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。—

- トラック方式：コンパクト カセット・ステレオ
- ヘッド：再生(メタパーム)×1 デッキA
消去(2ギャップフェライト)×1 } コンビネーション デッキB
録音/再生(メタパーム)×1
- モーター：キャブスタン用(電子制御 DC)×1 }
リール用(DC)×1 } デッキA・B共
メカニズム駆動用(DC)×1
- テープ速度：4.8cm/秒(定速時)、Aテープスピード調節つまみ中央位置
9.5cm/秒(倍速時)
- ワウ・フラッター：±0.16%W・Peak
0.08%WRMS
- 早巻時間：約110秒(C-60)
- 周波数特性：メタルテープ：*30Hz~16,000Hz±3dB
(-20dB録音) ハイポジションテープ：*30Hz~15,000Hz±3dB
ノーマルテープ：*30Hz~15,000Hz±3dB
- 周波数範囲：メタルテープ：*20Hz~17,000Hz
(-20dB録音) ハイポジションテープ：*20Hz~16,000Hz
ノーマルテープ：*20Hz~16,000Hz
- S N 比：*54dB(WTD、メタルテープ)
58dB(A、WTD、315Hz、3%3次高調波ひずみ率、メタルテープ)
DOLBY B NR ON時 1kHzで5dB、5kHz以上で10dB向上
DOLBY C NR ON時 500Hzで約15dB、1kHz~10kHzで最大20dB向上、
MOL改善効果10kHzで4dB向上
- ひずみ率：0.8%(315Hz、0VU、3次高調波ひずみ率、メタルテープ)
- チャンネルセレーション：40dB(1kHz)
- クロストーク：60dB(1kHz)
- 入力端子：マイク(×1、モノラル)：0.4mV(0VU、適合インピーダンス600Ω~10kΩ)、-68dBV
ライン入力(×1系統)：80mV(0VU、入力インピーダンス50kΩ)
- 出力端子：ライン出力(×1系統)：300mV(0VU、出力インピーダンス5kΩ)
ヘッドホン(×1)：0.3mW/8Ω(0VU、適合インピーダンス8Ω~1kΩ)
- その他の端子：コンピュリンク3/シンクロ(×2)：弊社のCDプレーヤーとシンクロ録音可能
リモート(×2)
- 電源：AC100V、50/60Hz共用
- 消費電力：電源“入”時17W、電源“スタンバイ(切)”時4.3W
- 質量：約4.9kg
- 寸法図

付属品

- ・ピンコード……………2
- ・リモートワイヤー……………1



●*印は日本電子機械工業会(EIAJ)規格に定められた測定方法による数値です。

お客様ご相談センター	
東京	電話 (03)5684-9311 〒113 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル
大阪	電話 (06) 765-4161 〒543 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

